

## 千葉までの避難ドキュメント

昨年3月11日(金)の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原発事故あの時…楳葉町の「デイサービスセンターゆずのさと」主任介護士・佐藤努さんの苦渋の決断とお年寄りたちとともに彷徨を余儀なくされた避難のドキュメント。

- 11日(金)  
14:46 自宅にて被災。身重の妻と娘は実家に預け職場へ。
- 12日(土)  
7:00 利用者のお年寄りたちと共に自主避難。  
12:00 妻子も乗せ、いわき市の体育館へ。お年寄りたちのケアに当たる。



▶ギター片手にお年寄りと談笑する佐藤さん

震災・原発事故あの時…

## お年寄りたちを安全な所に…

15:36 東京電力福島第一原発一号機で水素爆発

- 13日(日)  
7:00 妻子を親戚の家に預け、お年寄りたちを車に乗せ湯本の特別養護老人施設へ。  
11:00 到着。お年寄りたちのケアに当たる。
- 14日(月)  
11:01 東京電力福島第一原発三号機で水素爆発。
- 15日(火)  
未明 湯本市の施設への物資がストップしてしまう。  
7:00 お年寄りたちと共に当てもなく南へ避難を開始。  
13:00 ガソリンが底をつきはじめる。  
14:00 たまたま迷い込んだ道に偶然ガソリンスタンドがあり補給する。

- 16日(水)  
1:00 千葉県市原市の特別養護老人施設へ避難。お年寄りたちは安全安心な環境に。
- 17日(木)  
20:00 往復分のガソリンを補給し、いわき市へ出発。  
24:00 家族の待つ親戚の家に到着。
- 18日(金)  
6:00 避難準備をし、一家で市原市へ向かう。  
12:00 市原市の施設に到着。この夜、実に6日ぶりにゆっくり眠る。

最初の判断は迅速だった。東日本大震災の三月十一日(金)、双葉郡楳葉町の老人福祉施設「デイサービスセンターゆずのさと」で主任介護士を務めていた佐藤努さん(33)は、休日で自宅にて被災した。「これは大変な事になる!」すぐに妊娠九ヵ月だった妻の由起子さん(33)、娘の藍ちゃん(2)を実家に預け、水や食料、布団などを確保して職場へと向かった。施設利用者の送迎を試みるも隣町との道路は全て崩壊、施設待機を余儀なくされたが、用意した水や食糧などが功を奏すも隣町との道路は全て崩壊、施設で職員は自動的に避難の準備を始め、利用者、職員らと共に避難所へ出発。途中で佐藤さんの妻子を乗せ、一夜明け、佐藤さんたちわき市平の体育館に向かつた。しかし、佐藤さんはその後何度も難しい判断を迫られる事になる…。

一夜明け、佐藤さんたちわき市平の体育館に向かつた。しかし、そこは大勢の人で足の踏み場もない、お年寄りたちには厳しい環境。福島第一原発で最初の水素爆発。混乱の中、不眠不休で介護にあたっていた佐藤さんは、まず利用者をしかるべき環境に落ち着かせないと家族を守ることができないと判断。翌朝、妻子をいわき市の親類の家に避難させた後、湯本の特別養護老人施設へお年寄りたちと共に移った。落ち着く間もなく二回目の水素爆発。職員たちの気力・体力にも限界がきていた…。

翌朝、施設への物資が入ってきた。佐藤さんたちはトッピングし、佐藤さんたちはささらに南下する事を決断。それでも無く移動しながら携帯電話で受け入れてくれる施設を探し関東へ。燃料が底をつきそうな中、ようやく見つかった千葉県市原市にある特別養護老人施設「辰巳萬緑苑」へ到着。佐藤さんはお年寄りの介護をした後、ガソリンスタンドを往復して燃料を確保。家族を迎えていわき市へと戻り、

## 身重の妻、娘の安否胸に

# 愛され求める 千葉まで 4月開行 往復

楳葉のデイサービスセンター主任介護士 佐藤努さん



おばあちゃんの住むいわき市のみなさん  
仮設住宅にて佐藤家のみなさん

一ヶ月後に次女誕生  
昨年の四月二十七日、佐藤家に新しい命が誕生した。佐藤努さんはミュージシャンの顔も持つ。故郷を知らない娘に、いつの日か「故郷の音」を聴かせたいという願いから「響」と名付けた。最初はヤキモチばかり焼いていた長女の藍ちゃんも、今では色々と妹の面倒を見るようになり、すっかりお姉さんになっている。

避難している人 みんなの情報紙  
**紺** がんばろう福島!  
“紺”づくり応援事業  
福島県委託事業  
<紺新聞編集室>  
〒963-8835 福島県郡山市小原田2-19-19  
TEL024(944)0083  
メールアドレス kizuna-fp@utsukushima-npo.jp  
<受託・発行>  
特定非営利活動法人 うつくしまNPOネットワーク  
発行日:毎月1日  
<紺新聞(Web版)>  
<http://www.utsukushima-npo.jp/kizunashinbunweb/>

- 2面 ●連載「再始動の軌跡」②  
浪江の三瓶さん夫妻・佐藤さん  
3面 ●希望をつなぐラジオ体操の輪  
飯館の高橋義治さん  
●大熊の中学同級生ら再会  
●ふるさと紺情報ステーション

## II 今月の紙面 II

### 情報お寄せください

紺新聞編集室では、皆様からのお情報を待ちています。避難生活であきらめさせていたことが実現した、仮設住宅の一人暮らしのお年寄りを定期的に訪問している、避難先や別の地域で家業を再スタートさせた、イベント開催の予定、困りごとなど各種相談、どんな内容でも結構です。電話、郵便、メールでお寄せください。

**本紙連絡先**  
TEL 024(944)0083  
E-mail (メール)  
kizuna-fp@utsukushima-npo.jp  


### 本紙の配布場所募集

紺新聞編集室では、避難生活を送る方みなさんに本紙をお届けしたいと考えております。仮設住宅以外で生活されている方々の目につきやすい施設、企業、店舗等で本紙を置いていただける場所を募集しています。本紙は無料です。

# 紺新聞 第3号